

令和4年度
第1回地域別家庭ごみ組成調査
報告書

令和4年7月
秋田市環境部

目 次

1	調査の概要	1
(1)	調査の背景と目的	1
(2)	調査地域	1
(3)	調査期間	1
(4)	調査方法およびサンプル数の決定	1
2	調査結果	2
(1)	家庭ごみ用袋 1 袋当たりの重量	2
(2)	家庭ごみ組成調査	3
(3)	家庭ごみ用袋 1 袋当たりのレジ袋数	5
(4)	生ごみの含水率	5

1 調査の概要

(1) 調査の背景と目的

市民生活の多様化に伴い排出される廃棄物の適正処理が社会問題となる状況において、市民一人ひとりがごみの排出抑制および再資源化に取り組むことのできるような地域環境づくりが求められています。

このような状況の中で、本市の家庭ごみ排出の現状を把握し、家庭ごみ減量の方策とリサイクルの推進を検討する際の基礎資料とすることを目的として、平成19年度から家庭ごみ組成調査が開始しました。

当初は隔年で調査を行ってききましたが、平成24年7月の家庭ごみの有料化制度導入以降は、毎年度実施しています。

(2) 調査地域

中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の6地域に分け集計しています。

(3) 調査期間

家庭ごみの組成には、季節的な変動があるため、一年を通して春・夏・秋・冬の計4回行っています。

第1回の調査は、令和4年5月26日(木)・27日(金)に実施しました。

(4) 調査方法およびサンプル数の決定

家庭ごみは、各地域の集積所から無作為に収集しています。

サンプル数は、各地域別人口比によって決定しています。

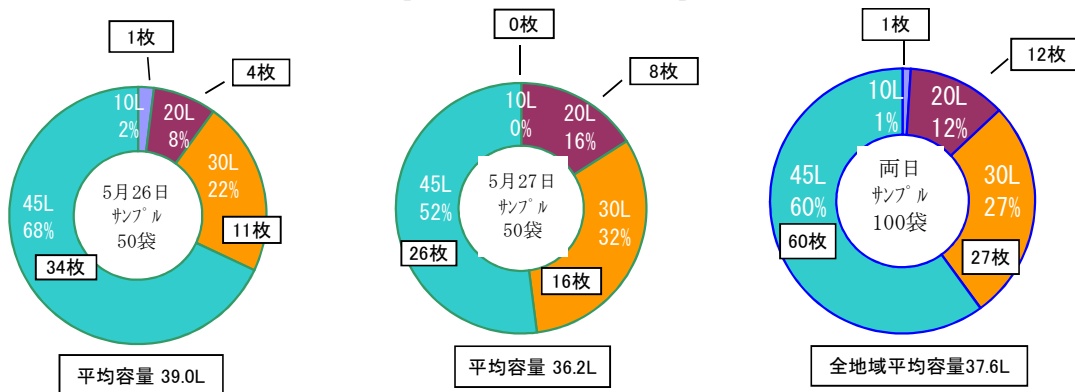
サンプルとして抽出された袋の数量および容量については【表1】のとおりです。地域単位ごとに1袋ごとの重量を測定し、その後、中身を分類項目【表2】に従って仕分け、計量しました。

【表1 袋数および袋の容量】

(単位：袋)

地 域	中央	東 部	西 部	南 部	北 部	河・雄	計
5月26日(木)	10L袋	0	0	1	0	0	1
	20L袋	0	2	1	1	0	4
	30L袋	3	5	1	1	1	11
	45L袋	8	3	2	6	11	34
サンプル計	11	10	5	8	12	4	50
5月27日(金)	10L袋	0	0	0	0	0	0
	20L袋	4	0	2	0	1	8
	30L袋	5	5	1	2	1	16
	45L袋	3	3	3	6	10	26
サンプル計	12	8	6	8	12	4	50
合 計	23	18	11	16	24	8	100
使用袋の平均容量 (L)							37.6

【グラフ1 袋の容量別割合】



参考：R3.5 10L (1%) 20L (10%) 30L (43%) 45L (46%)

【表2 家庭ごみの分類項目】

分類項目	代表品目および特記事項
① 生ごみ	生ごみを入れた袋等を含む
② 草木・竹類	剪定枝、木箱、割り箸等
③ 衣類	繊維片、ウエス等は除く
④ ゴム・皮革類	かばん、靴、ベルト等
⑤ プラスチック類	食品トレイ、発泡スチロール、袋、カップ等
⑥ 陶器・ガラス類	茶碗、皿、コップ、白熱電球等
⑦ 紙（資源化物）	新聞、雑誌、紙パック、ダンボール、カタログ類等
⑧ 紙（資源化物以外）	ティッシュ、写真、アルミ加工されたパック等
⑨ 空き缶（資源化物）	飲料・食品の空き缶類
⑩ 空きびん（資源化物）	飲料・食品の空きびん類
⑪ ペットボトル（資源化物）	ペットボトル類（無色）
⑫ 金属類（資源化物）	金属鍋、フライパン等
⑬ 金属類（資源化物以外）	⑨⑫以外の金属類。針、空き塗料缶等
⑭ 石・土砂類	
⑮ コンクリート類	
⑯ その他	①～⑮以外。紙オムツ、繊維片、ウエス、ぬいぐるみ等
⑰ レジ袋	レジ袋の枚数

2 調査結果

(1) 家庭ごみ用袋1袋当たりの重量

家庭ごみ用袋1袋当たりの平均重量は【表3】のとおりです。市全体の平均重量は3.87kgで、使用袋の平均容量は37.6ℓであることから、見かけ比重（1ℓ当たりの重量）は0.10kg/ℓとなっています。

なお、令和3年5月調査と比べると、全地域平均重量で約0.25kg減少しています。

袋の容量別の比重については【表4】のとおりです。

【表3 1袋あたりの重量】

(単位：kg)

区分	中央	東部	西部	南部	北部	河・雄	全地域
平均	3.73	2.90	3.47	4.71	4.45	3.58	3.87
最大	7.63	7.12	6.45	7.19	8.25	5.37	8.25
最小	1.05	0.82	2.37	2.64	1.79	2.25	0.82

参考：R3.5 全地域平均4.12kg

【表4 袋の容量別比重】

容量	枚数	合計重量(kg)	平均重量(kg)	1ℓ当たり比重(kg/ℓ)
10ℓ	1	2.94	2.94	0.29
20ℓ	12	30.48	2.54	0.13
30ℓ	27	88.33	3.27	0.11
45ℓ	60	265.46	4.42	0.10

(2) 家庭ごみ組成調査

各地域別による家庭ごみの組成結果は【表5】のとおりです。秋田市全体の家庭ごみ組成割合では「生ごみ」が35.68%と最も高く、次いで「紙（資源化物含む）」が19.10%、「プラスチック類」が17.58%、という順で高くなっています。なお、令和3年5月の調査と比べると、生ごみが5.11ポイント減少、一方紙は2.01ポイント増加、プラスチック類についても0.61ポイント増加しています。

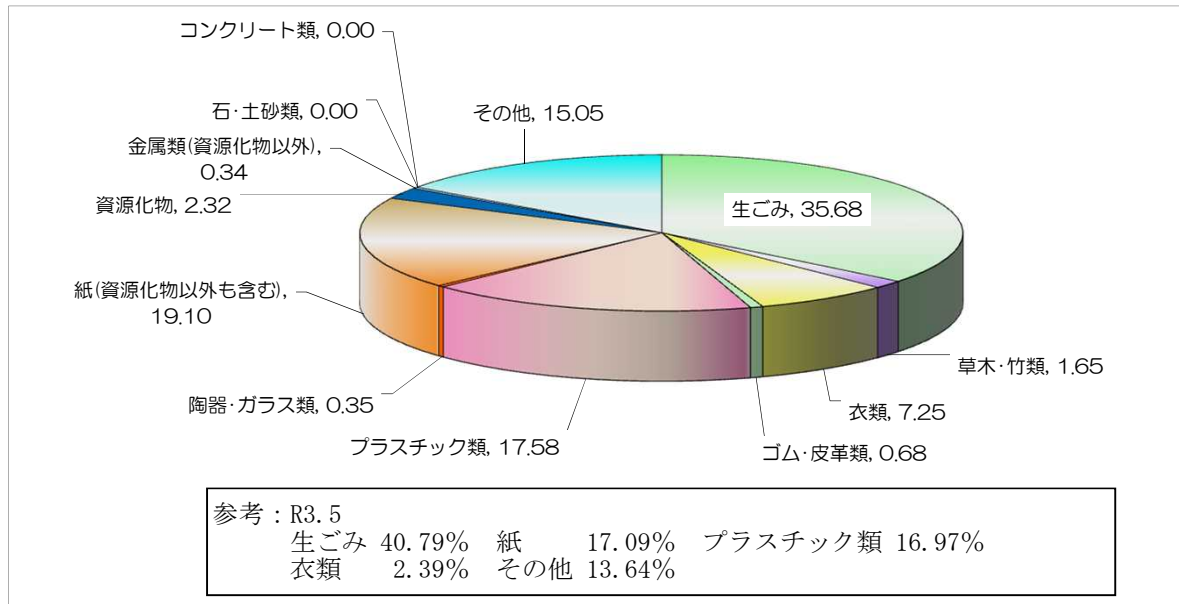
【表5 家庭ごみの組成割合】

(単位：%)

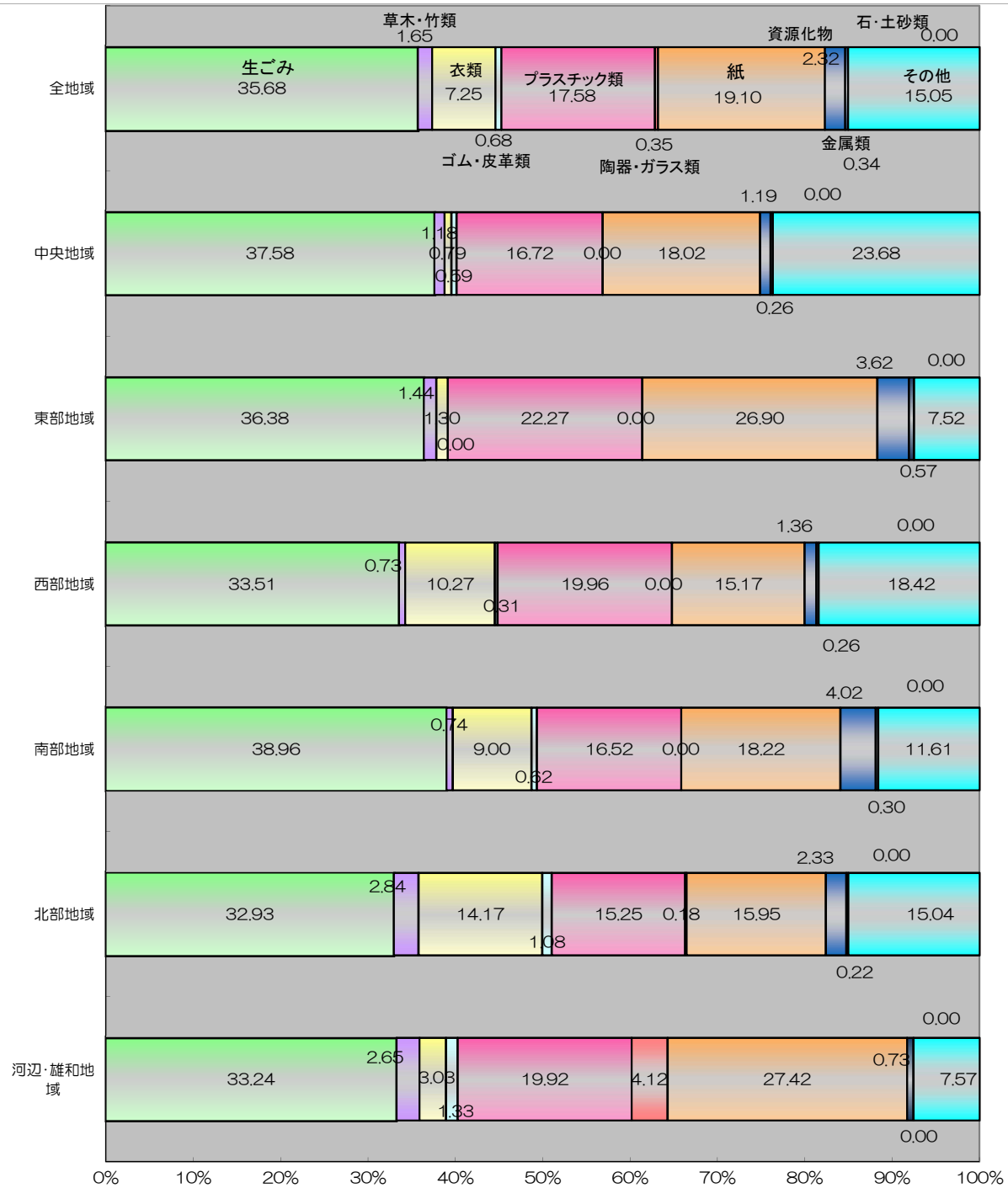
区分	中央	東部	西部	南部	北部	河・雄	全地域
① 生ごみ	37.58	36.38	33.51	38.96	32.93	33.24	35.68
② 草木・竹類	1.18	1.44	0.73	0.74	2.84	2.65	1.65
③ 衣類	0.79	1.30	10.27	9.00	14.17	3.03	7.25
④ ゴム・皮革類	0.59	-	0.31	0.62	1.08	1.33	0.68
⑤ プラスチック類	16.72	22.27	19.96	16.52	15.25	19.92	17.58
⑥ 陶器・ガラス類	-	-	-	-	0.18	4.12	0.35
⑦ 紙（資源化物）	8.67	9.29	7.15	8.37	7.99	15.00	8.82
⑧ 紙（資源化物以外）	9.35	17.61	8.02	9.85	7.96	12.42	10.28
⑨ 空き缶（資源化物）	0.40	0.19	-	0.20	0.11	-	0.18
⑩ 空きびん（資源化物）	0.31	1.88	0.63	0.19	0.28	-	0.50
⑪ ペットボトル（資源化物）	0.22	0.25	0.39	0.13	0.10	-	0.18
⑫ 金属類（資源化物）	0.26	1.30	0.34	3.50	1.84	-	1.46
⑬ 金属類（資源化物以外）	0.26	0.57	0.26	0.30	0.22	0.73	0.34
⑭ 石・土砂類	-	-	-	-	-	-	-
⑮ コンクリート類	-	-	-	-	-	-	-
⑯ その他	23.68	7.52	18.42	11.61	15.04	7.57	15.05

※端数処理により合計が100%にならない場合があります。

【グラフ2 全体の家庭ごみの組成割合】



【グラフ3 地域別の家庭ごみの組成割合】



- 生ごみ
- 草木・竹類
- 衣類
- ゴム・皮革類
- プラスチック類
- 陶器・ガラス類
- 紙(資源化物以外も含む)
- 資源化物
- 金属類(資源化物以外)
- 石・土砂類
- コンクリート類
- その他

(3) 家庭ごみ用袋1袋当たりのレジ袋数

各地域の家庭ごみ用袋1袋当たりのレジ袋数は【表6】のとおりです。
市全体では3.5枚です。

なお、令和3年5月調査の使用枚数と比較すると、0.4枚増加しています。

【表6 ごみ袋1袋当たりのレジ袋数】

(単位：枚)

区分	中央	東部	西部	南部	北部	河・雄	全地域
レジ袋数	3.8	3.8	1.8	3.3	4.0	3.1	3.5

参考R3.5 全地域3.1

(4) 生ごみの含水率

生ごみの含水率検査を検査機関で実施した結果は【表7】のとおりです。

含水率測定用の各サンプルの内容物は、残飯類、野菜、果物くずを中心に、
調査1日目をサンプルA、調査2日目をサンプルBとしています。

含水率については、サンプルAが79.94%、Bが80.35%で、平均
値は80.15%です。

【表7 生ごみの含水率】

サンプル	湿重 (g)	乾重 (g)	含水率 (%)
A	490.6	98.4	79.94
B	496.6	97.6	80.35
平均			80.15

参考：R3.5 含水率平均66.42%